

第一章 序論

1-1 背景

1-1-1 本研究の背景^{1) 2) 3)}

従来の衣類の代表的なリサイクル用途は反毛とウエスであった。しかし、反毛を使う繊維製品の生産がコストの安い中国などに移ってしまったため需要が減ってしまった。一方、ウエスも工場の海外移転やゼロエミッションの推奨のため使い捨てのウエスは敬遠されるようになった。リユースに関しては、日本で回収される衣類の多くは東南アジアに輸出をされていた。しかし、東南アジアの急速な発展により、リユースの需要が減少した¹⁾。

繊維リサイクル懇談会報告書では、国内における繊維製品のリサイクルが難しい状況を素材の複合度の高さ、製品の多様性と高いファッション性(流行に左右される)、広がらない再生用途、複雑な生産流通構造などとしている²⁾。

現在の衣料はリサイクルをしにくくなっており、加えて海外からの古着の需要も減少している。そのため、日本国内で繊維製品をできるだけ長く衣料として使うことが良いと考える。

xChange は参加者がただ増えればよいのではなく、相互に交換がなされ、リピートされていることが望ましい。さらに環境負荷を減らすためには衣料を遠方に送付するのではなく、身近な場所で交換される方がより環境への負荷を減らすことができ望ましいと考える。本研究では特定多数の中で xChange が学生にも受け入れられ普及するのかどうかについて論じる。

1-1-2 xChange の概要⁴⁾

xChange(エクステンジ)とは、ファッションアイテムに特化した、誰でも自由に参加し開催できるフリースタイルの物々交換会のことである。所有から共有へ、循環型社会を促すことを目的としたプロジェクトである。2007年9月に東京のカフェ・バーで初めて開催され、開催数は140回以上(2012年まで)で、世界にも広がっている。

xChange には以下の5つの特徴がある。

- ①交換会に出されるアイテム1つ1つに「エピソードタグ」と呼ばれるタグを付けること
- ②自由に参加できるフリースタイルであること
- ③ものを買わずにすでにあるものを活用すること
- ④誰も損をしたりもうけたりしないこと
- ⑤誰でも開催することができる

他の交換会とは違ってエピソードタグをつけることによって人や地域の繋がりを豊かにし、所有から共有へ、循環型の社会へのシフトを促すことを目的にしている。

1-1-3 滋賀県内で行われている xChange の状況⁵⁾

滋賀県内では, Link+滋賀という団体が 2013 年 6 月から今まで大津市や東近江市で xChange を開催している. xChange 以外には「子供向け講座」という、子どもたちに“モノを大事に使い続ける心”を学ぶ講座をおこなっている.

1-1-4 xChange の課題⁶⁾

Link+滋賀が開催している xChange では 50~60 代の女性が多く、子ども服の交換も行うときは子ども連れの 20~30 代の女性が多い.

Link+滋賀が抱えている課題は、若い世代の参加者がいないことである.

1-2 本研究の目的

本研究の目的は、以下に示す 3 つである.

目的 1 : 大学生の衣料交換会への参加状況を把握する.

目的 2 : 大学生の衣料の交換会に対する意識を把握する.

目的 3 : 今後の衣料交換会の大学生への普及の可能性について調査し、提案する.

1-3 本研究の意義

本研究の意義は、衣料交換会の利用者が増加することで、使わなくなった衣料を他人に譲り、無駄に処分される量を減らせることである.

1-4 本研究の方法

本研究の目的を以下のような方法で達成する.

1-4-1 xChange の社会実験

特定多数の人が集まる大学内(滋賀県立大学)で xChange を 3 回(2014 年 10 月, 2015 年 1 月, 4 月)行い、大学生の衣料の交換会の参加状況について把握する.

1-4-2 xChange 予備アンケート調査

(1)で参加者にアンケート調査を行う. アンケートでは、①参加者の属性、②参加回数、③交換した服、④交換しなかった理由、⑤半年以内に買った服、⑥参加経験後の服の購買行動の変化などについて質問する. 取得したデータを単純集計によって xChange の参加状況を把握する.

1-4-3 アンケート調査

大学内で学生を対象とするアンケート調査を行う. 属性や環境への意識と衣料交換会の意識との関係性や、交換会の対象となる衣料について調査する.

1-5 本研究の構成

- 第一章 本研究の背景・目的・意義・方法・構成・用語の序論
- 第二章 不要衣料の処分方法について詳述する.
- 第三章 社会実験について詳述する
- 第四章 衣料交換会に対する学内アンケート調査について詳述する.
- 第五章 アンケート集計結果と考察について陳述する.
- 第六章 アンケート調査結果の分析について陳述する

1-6 本研究における用語の定義

本研究での主な用語について説明する.

- xChange

ファッションアイテムに特化した,自由に参加し開催できるフリースタイルの物々交換会のことである.交換会に出されるアイテム1つ1つに「エピソードタグ」と呼ばれるタグが付けられる.

- エピソードタグ

衣料交換会に持ち寄られた衣料の前回の所有者のメッセージと、名前またはニックネームが書かれたもの.

- 交換会

いらなくなった衣料を回収し、別の市民に無料で提供している集会のこと.

<参考文献>

- 1) 山川肇：衣料のリユース・リサイクル 進まない理由と最近の動き，循環とくらし 2(2),pp.78-79 (2011)
- 2) 高月紘：繊維製品の知られざる環境負荷，循環とくらし 2(1),pp.18-21 (2011)
- 3) 経済産業省：民間活力を生かしたリサイクル推進を狙う，地球環境 34(2),pp.38-39 (2003)
- 4) 服としあわせのシェア:xChange<<http://letsxchange.jp/>>2016-1-15
- 5) Link+滋賀<<http://linkshiga.jimdo.com/>>1016-1-18
- 6) Link+滋賀 柳澤知伽，2014-9-28，会話

第二章 大学生の衣料交換会の参加状況の把握

2-1 はじめに

本章では、大学生の衣料交換会の参加状況を把握するための、調査対象及び調査方法を述べる。

2-2 調査目的

本章では、大学生の衣料交換会への参加状況を把握（目的1）する。

2-3 調査対象

研究対象は、環境系の学部や服飾系の学部があり、環境やファッションに対する意識が高い学生が多いと考えられる滋賀県立大学の学生とした。

2-4 調査方法

1-4-1（xChangeの社会実験）、1-4-2（予備アンケート調査）で述べたとおりである。

2-4-1 学内 xChange の実施期間

2014年10月28.29日 2015年1月27.28日 2015年4月28.29日に滋賀県立大学内で衣料の交換会を行った。3回すべて行う前に、学生支援センターに申請書を提出し、食堂の前を使用する許可を得て行っている。

2-5 予備アンケート集計結果

予備アンケートの単純集計結果を記す。

2-5-1 参加者の動向

3回行った衣料交換会の社会実験の参加者の動向を以下の図2-1に示す。

男女の比率で見ると、1回目（2014年10月）の男性49.2%、女性50.8%、2回目（2015年1月）の男性55.2%、女性44.8%、3回目（2015年4月）の男性41.9%、女性58.1%であった。3回のそれぞれの延べ合計人数が男性84人、女性85人、それぞれの比率が男性49.7%、女性50.3%であった。

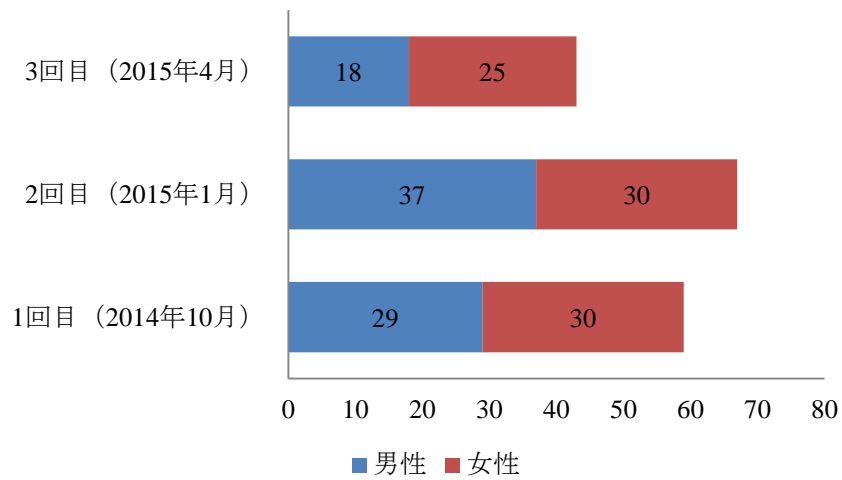


図 2-1 衣料交換会の参加人数 (人)

2-5-2 衣料交換会参加経験者の動向

3 回行った社会実験の参加者で、以前に大学内外で衣料交換会の参加の有無について質問したアンケートの集計結果を、以下の図 2-2 に示す。

参加者のうちの参加経験者の比率は、1 回目は 0.0%、2 回目 26.9%、3 回目 25.6%であった。また、

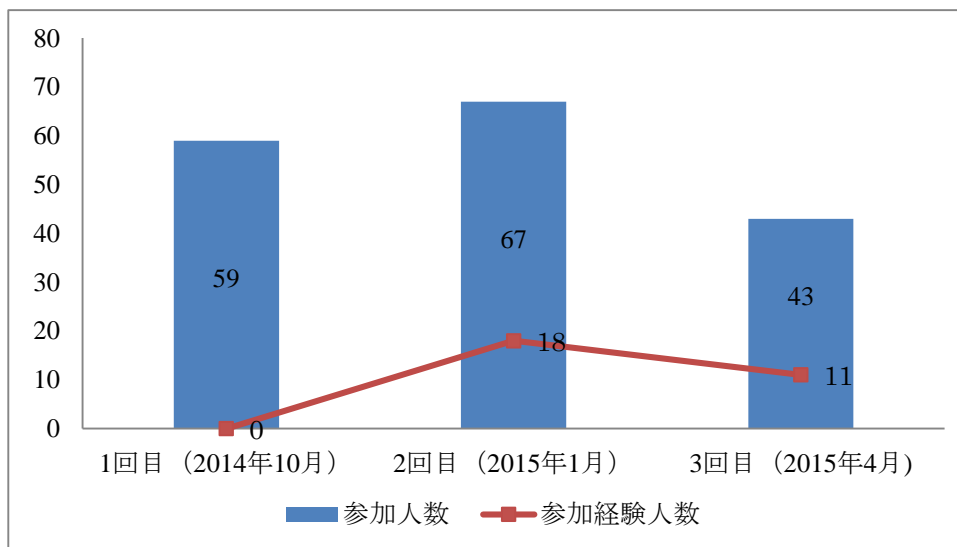


図 2-2 参加人数と参加経験者の動向 (人)

2-5-3 参加者と交換行動

それぞれの参加者の衣料交換会における行動を、以下の図 2-3 に示す。

参加行動のそれぞれの比率は交換，持ってくるのみ，持ち帰るのみ，交換なしの順に，1 回目では 10.2%，18.6%，33.9%，39.0%，2 回目では 0.0%，4.5%，14.9%，82.1%，3 回目では 2.3%，2.3%，20.9%，74.4%であった。

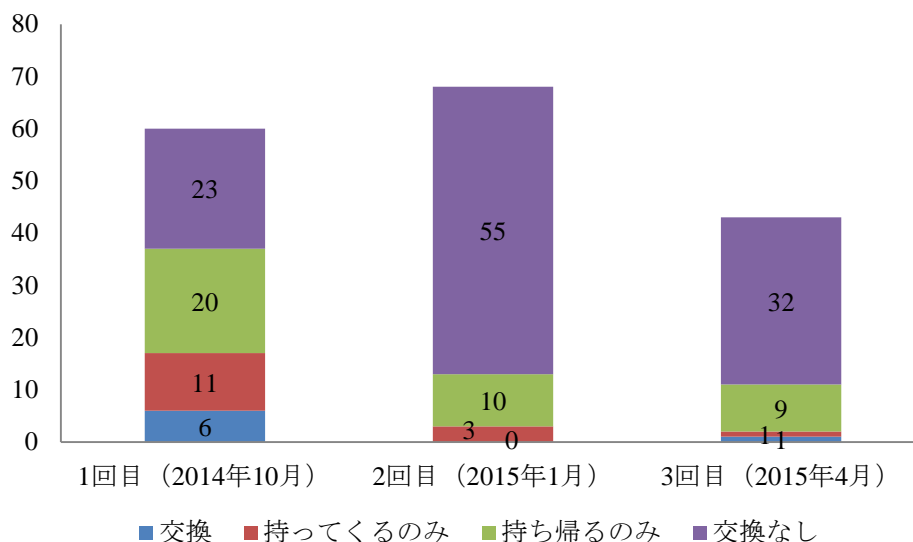


図 2-3 参加者の参加行動 (人)

2-5-4 交換会に出される衣料

それぞれの交換会で持ち寄られた衣料と持ち帰られた衣料について質問した集計結果を表 2-1，表 2-2，表 2-3 に示す。ジャケットやコート，シャツなどが多く交換されている。

表 2-1 1 回目 (2014 年 10 月) の衣料交換会で参加者に持ち寄られた衣料と持ち帰られた衣料 (着)

	ジャケット	コート	シャツ	セーター	ワンピース	パンツ	スカート	靴	カバン	アクセサリ	その他
持ち寄った服	5	2	13	0	2	5	0	1	0	0	7
持ち帰った服	3	2	12	2	1	3	0	1	1	3	5

表 2-2 2 回目（2015 年 1 月）の衣料交換会で参加者に持ち寄られた衣料と
持ち帰られた衣料（着）

	ジャケット	コート	シャツ	セーター	ワンピース	パンツ	スカート	靴	カバン	アクセサリ	その他
持ち寄った服	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	2
持ち帰った服	0	1	6	1	1	0	1	0	0	0	3

表 2-3 3 回目（2015 年 4 月）の衣料交換会で参加者に持ち寄られた衣料と
持ち帰られた衣料（着）

	ジャケット	コート	シャツ	セーター	ワンピース	パンツ	スカート	靴	カバン	アクセサリ	その他
持ち寄った服	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1
持ち帰った服	3	1	7	0	0	3	0	0	0	0	2

2-6 社会実験の考察

衣料交換会の開催場所に入るが、交換行動をしない参加者が多数みられる。

衣料交換会では、気軽に羽織ったりすることができるジャケットやコート、シャツがおおく交換された。

<参考文献>

- 1) 田代麻衣子：「かえっこバザール」における児童の行動とおもちゃの関係，滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 2006 年度卒業論文（2007）

第三章 衣料交換会に対する学内アンケート調査の内容

3-1 はじめに

本章では、アンケートの調査方法とその分析方法について述べる。

3-2 調査目的

大学生の衣料の交換会に対する意識を把握（目的 2）する。また、大学生の衣料交換会の普及の可能性について調査し、今後の衣料交換会について提案（目的 3）する。

3-3 調査方法

調査の目的を、以下のようにアンケート調査と分析方法によって達成する。

3-3-1 アンケート配布方法・回収方法

2015年11月2日～20日の11時～12時と13時30分～17時に食堂内で滋賀県立大学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。配布方法は直接、学生にアンケートを配り記入してもらい、その場で回収した。その結果、190人の学生からアンケートを回収することができた。

3-3-2 分析方法

ここでは、実施したアンケートの分析方法について述べる。

3-3-2-1 集計方法

アンケート調査で得たデータについて、単純集計やクロス集計、自動集計検定（js=STAR）を用いて集計を行い、その傾向を明らかにする。

3-3-2-2 因子分析

アンケートの衣料交換会に関する意識についての要因を因子分析し、学生の衣料交換会への参加に関係する因子を明らかにする。

3-3-2-3 重回帰分析

因子分析を行い有意となる説明変数データを抜粋し、重回帰分析を行った。目的変数は、アンケートの項目 16「今後、衣料交換会があれば参加したいと思う」、項目 17「不要になった衣料を交換会に持ち寄りたいと思う」、項目 18「他の人が不要になった衣料を交換会に参加して持ち帰りたいと思う」の3つとして分析した。

3-4 アンケートの質問項目

質問項目は性別や所属学部、自宅生または下宿生などの「属性について」と、衣料交換会

の参加要因を特定するための因子分析に用いる調査項目「衣料交換会について」と、今後の衣料交換会を提案するため「不要衣料を持ち寄る立場」と「不要衣料を持ち帰る立場」の4つに大きく分類できる。それぞれの質問内容について以下の第3-4-1項、第3-4-2項、第3-4-3項、第3-4-4項において各質問内容について説明する。

3-4-1 属性について

衣料交換会の参加要因は属性によって異なると推測される。そこで学生の属性として性別や所属学部、居住形態について質問を行った。いずれの質問も回答は単数回答とした。

3-4-2 衣料交換会のイメージについて

「環境的要因」、「経済的要因」、「ファッション的要因」、「衛生的要因」、「社会的要因」、「利便的要因」の質問項目を作成し、いずれも5段階評定尺度（「1. 当てはまる」「2. 少し当てはまる」「3. どちらでもない」「4. あまり当てはまらない」「5. 当てはまらない」）で測定した。

また、衣料交換会の参加経験の有無、参加経験者には参加経験後の衣料購買行動などの変化、不参加者には衣料交換会に参加したくない理由についての質問を行った。行動の変化や参加しない理由については複数回答としそれ以外の質問項目は単数回答とした。質問内容と想定因子について表3-1に示す。

表 3-1 衣料交換会のイメージに関する質問項目と仮定した構成概念

略称	質問内容	因子
要因 1	長い期間、衣料を衣料として着ることは良いと考える	環境配慮
要因 2	使用していない衣料があることは環境に悪いと思う	環境配慮
要因 3	交換会ではほぼ無料で衣料がもらえるため経済的に助かる	経済性
要因 4	交換会に衣料を持っていくことは経済的にもったいないと思う	経済性
要因 5	自分が処分したいと思う衣料が他人に喜ばれるのか自信がない	ファッション性
要因 6	掘り出し物を見つけられると思う	ファッション性
要因 7	他人の着た服を着ることに抵抗を感じる	衛生性
要因 8	交換会に出されている衣料は見た目が汚れていたりよれていたりしていそうだと思う	衛生性
要因 9	衣料を持ち帰った場合、衣料の前回の持ち主に会うと気まずいと思う	社会性
要因 10	エピソードタグが付いているので大切にしようと思う	社会性
要因 11	衣料交換会に出される服に、エピソードタグを付けることは、交換会の普及につながると思う	社会性
要因 12	気軽に衣料を処分し持ち帰れるから良いと思う	利便性
要因 13	開催日が決まっているので不便であると思う	利便性
要因 14	長い期間、衣料を衣料として着ることは環境に良いと考える	環境配慮
要因 15	ファッションに興味がある	ファッション性

3-4-3 不要衣料を持ち寄る立場について

衣料交換会に持ち寄りたい衣料の価格帯や衣料を不要に感じる時、エピソードタグにメッセージや名前などを書くことに関して、適当な開催頻度について質問した。衣料を不要に感じる時に関する質問は複数回答で、それ以外は単数回答である。また、回答者は不要衣料を持ち寄る立場になったと仮定して回答するものとした。衣料の価格帯の選択肢の設定の仕方は表 3-2 に示す。

表 3-2 選択肢の価格帯の決め方と相当するブランド

	ファストファッション ブランド	ヤング向けブランド	ハイブランド	高級ブランド
シャツ (カッター シャツ, ブラウス)	～3000 円	3001～7000 円	7001～17000 円	17001 円～
コート	～10000 円	10001～20000 円	20001～40000 円	40001 円～
パンツ, ズボン	～5000 円	5001～10000 円	10001～25000 円	25001 円～

3-4-4 不要衣料を持ち帰る立場

衣料交換会で持ち帰りたい衣料の価格帯や衣料を欲しいと思う時、エピソードタグにメッセージが書かれていることについて、衣料の以前の所有者がわかることについて、適当な開催頻度について質問した。衣料を欲しいと思う時に関する質問は複数回答で、それ以外は単数回答である。また、回答者は不要衣料を持ち帰る立場になったと仮定して回答するものとする。衣料の価格帯の選択肢の設定の仕方は表 3-2 に示す。

3-5 アンケートの有効回答について

それぞれの分析を行うために必要な解答がされていないアンケートは、原則としてその分析においてのみ無効とする。

3-5-1 無効回答

アンケートのⅠ (属性)、Ⅱ①～⑱のうち、1 つでも回答がなされていないものは、分析に使用していない。

3-5-2-1 項目 16「今後、衣料交換会があれば参加したいと思う」に関するクロス集計、重回帰分析で無効とされる回答について

項目 16「今後、衣料交換会があれば参加したいと思う」とアンケートのⅢまたは、Ⅳで1 つでも回答がなされていないものは、分析に使用していない。

3-5-2-2 項目 17「不要になった衣料を交換会に持ち寄りたいと思う」に関するクロス集計、重回帰分析で無効とされる回答について

項目 17「不要になった衣料を交換会に持ち寄りたいと思う」とアンケートのⅢで1 つでも回答がなされていないものは、分析に使用していない。

3-5-2-3 項目 18「他の人が不要になった衣料を交換会に参加して持って帰りたいと思う」に関するクロス集計，重回帰分析で無効とされる回答について

項目 18「他の人が不要になった衣料を交換会に参加して持って帰りたいと思う」とアンケートのIVで1つでも回答がなされていないものは，分析に使用していない。

<参考文献>

- 1) 堤侑加：滋賀県立大学生のマイバック使用動機とマイバック持参率向上に向けた方策の提案，滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 2012 年度卒業論文 (2013)

第四章 衣料交換会への大学生の意識の把握

4-1 はじめに

本章では、第四章の内容で実施したアンケートデータより分析した、衣料交換会への大学生の意識の把握について記す。

4-2 調査対象者の属性

調査対象者の属性の集計結果を以下の図 4-1 に示す。

男女の比率は、男性 51%、女性 49%であった。学部比率は、環境科学部 27%、工学部 28%、人間文化学部 25%、人間看護学部 20%であった。居住形態は、自宅生 61%、下宿生 39%であった。

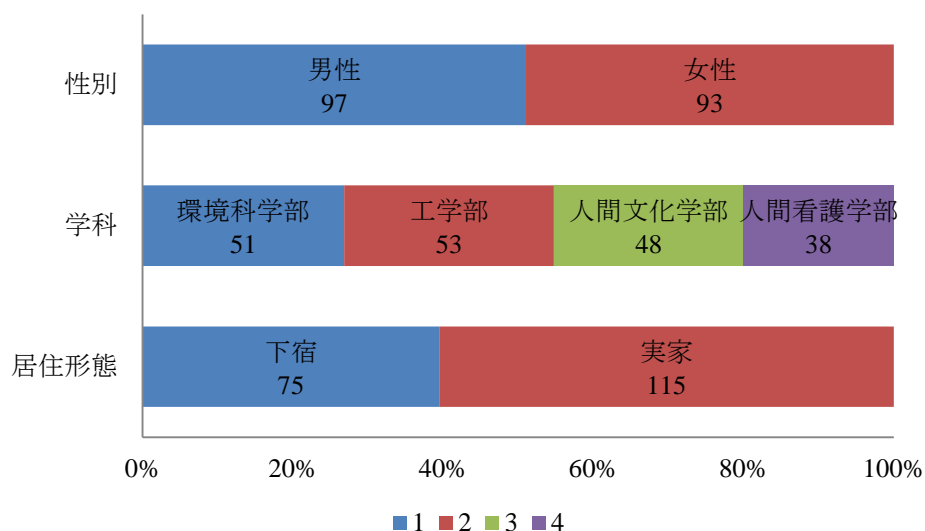


図 4-1 調査対象者の属性の集計結果 (人)

4-3 衣料交換会のイメージに関する質問項目

衣料交換会のイメージに関する質問項目について学生全体で単純集計を行った後に学生がどのような要因を肯定または否定しているかを確認した。その結果を図 4-2 に示す。

要因 1「長い期間、衣料を衣料として着ることは良いと考える」や要因 14「長い期間、衣料を衣料として着ることは環境に良いと考える」のように長い期間衣料として使用することを環境に良いと考える回答者が多い一方で、要因 2「使用していない衣料があることは環境に悪いと思う」に「1. 当てはまる」と回答した人は少なくなった。要因 6「掘り出し物を見つけられると思う」などファッション面や要因 12「気軽に衣料を処分し持ち帰れるから良いと思う」など利便性の面で衣料交換会への積極的な回答が見られた。一方で、要因 7「他人の着た服を着ることに抵抗を感じる」や要因 8「交換会に出されている衣料は見た目汚れていたりよれていたりしていそうだと思う」などの衛生面に関する要因で、衣料交

換会に対して消極的な回答している回答者が多い。

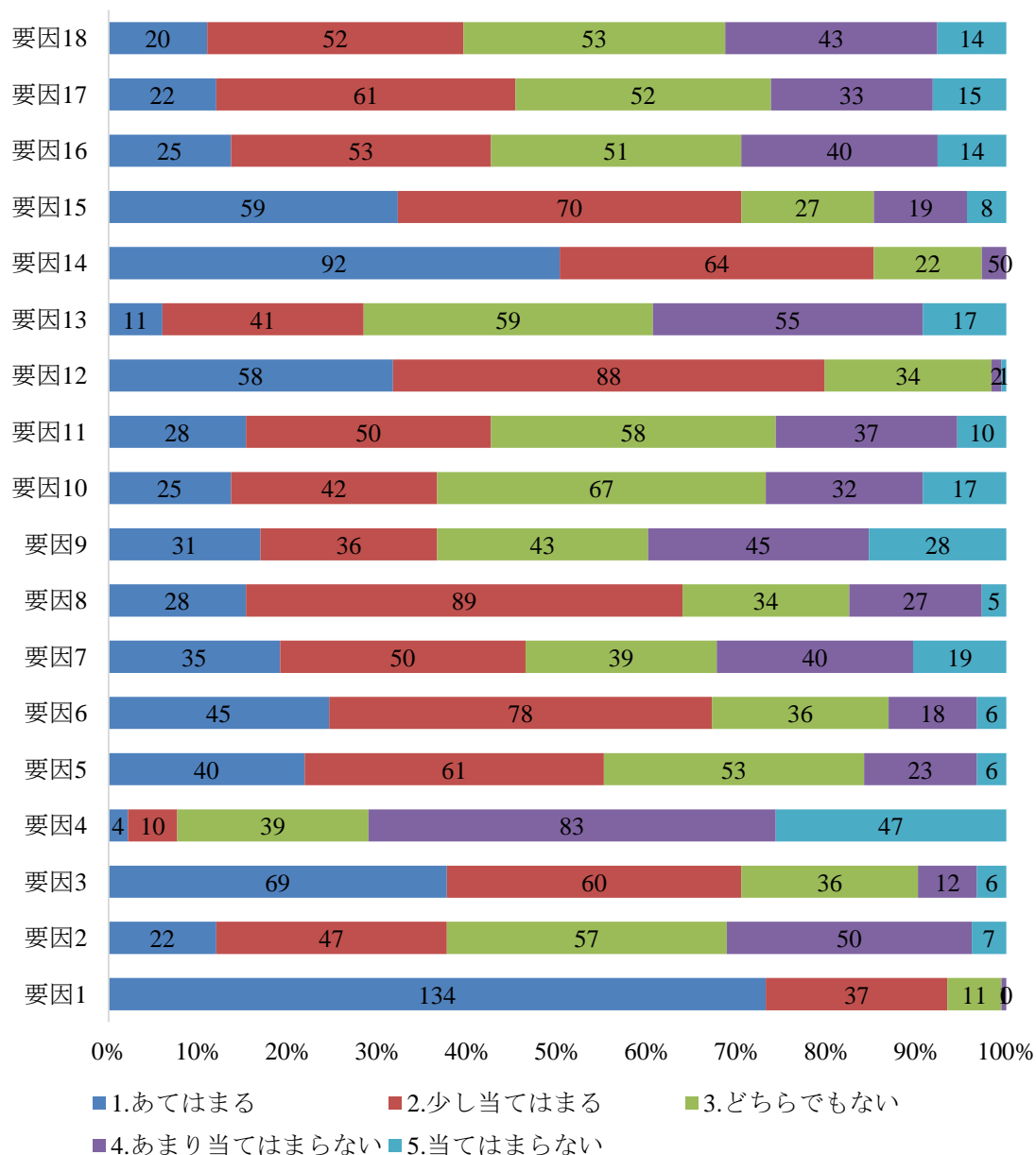


図 4-2 学生全体での衣料交換会のイメージに関する項目の単純集計結果（人）（n=183）

4-4 不要衣料を持ち寄る立場を仮定した質問項目の集計結果

不要衣料を持ち寄る立場を仮定して質問を実施した、アンケートのⅢの単純集計結果を記す。

4-4-1 衣料交換会に持ち寄る衣料の購入値段に関する質問項目の集計結果

質問項目にシャツ（カッターシャツ・ブラウス）、コート、パンツ・ズボン用いた。それぞれ 4 つの価格帯を例として挙げ、アンケート回答者にはどの価格帯で購入した衣料を衣料交換会に持ち寄ることができるかについて、不要衣料を持ち寄ることを仮定して質問を実施した集計結果を表 4-1、表 4-2、表 4-3 示す。

シャツ（カッターシャツ・ブラウス）を例として挙げた質問項目では、選択回答のうち最も低価格帯の「～3000 円」に 60%以上の回答が集中した。また、2つ目に低価格帯の「3001～7000 円」の選択回答に 35%以上が集まり、7000 円以下の回答に 95%の回答が集中した。

コートを例として挙げた質問項目では、選択回答のうち最も低価格帯の「～10000 円」に 65%以上の回答が集中した。また、2つ目に低価格帯の「10001～20000 円」の選択回答に 30%以上が集まり、20000 円以下の回答に 95%の回答が集中した。

パンツ・ズボンを例として挙げた質問項目では、選択回答のうち最も低価格帯の「～5000 円」に 65%以上の回答が集中した。また、2つ目に低価格帯の「5001～10000 円」の選択回答に 30%以上が集まり、10000 円以下の回答に 95%の回答が集中した。

例として取り上げた3種類の衣料の全てが選択回答のうち最も低価格帯の選択肢に 60%以上、2つ目に低価格帯の選択肢までに 95%が集中する結果となった。

表 4-1 持ち寄っても良いと思うシャツ（カッターシャツ、ブラウスなど）の購入時の値段（n=188）

衣料の値段	回答人数（人）	回答率（%）
～3000 円	118	62.8%
3001～7000 円	67	35.6%
7001～17000 円	1	0.5%
17001 円～	2	1.1%

表 4-2 持ち寄っても良いと思うコートの購入時の値段（n=188）

衣料の値段	回答人数（人）	回答率（%）
～10000 円	123	65.4%
10001～20000 円	58	30.9%
20001～40000 円	4	2.1%
40001 円～	3	1.6%

表 4-3 持ち寄っても良いと思うパンツ，ズボンの購入時の値段（n=188）

衣料の値段	回答人数（人）	回答率（%）
～5000 円	125	66.5%
5001～10000 円	59	31.4%
10001～25000 円	2	1.1%
25001 円～	2	1.1%

4-4-2 衣料を不要に感じるときに関する質問項目の集計結果

普段，衣料を不要になったと感じるときに関する質問項目の集計結果を表 4-4 に示す。

最も多い回答は「好みが変わったとき」であった。次に「長い期間使用していて，黄ばみなど汚れたり破れてしまったとき」，「サイズが変わったとき」となった。衣料が不要と感じるタイミングとして，購入してからある程度長い期間使用されていると考えられる。

表 4-4 衣料を不要と感じるとき（n=188）

衣料を不要と感じる時に関する質問項目	回答者数(人)	回答率
好みが変わったとき	112	58.9%
長い期間使用していて，黄ばみなど汚れたり破れてしまったとき	102	53.7%
サイズが変わったとき	95	50.0%
収納場所に困ったとき	72	37.9%
新しい衣料を購入したとき	49	25.8%
流行のものではなくなったとき	44	23.2%
不意に汚してしまったとき	38	20.0%

4-4-3 エピソードタグに関する質問項目の集計結果

衣料交換会に持ち寄られる衣料にメッセージや名前を書いたタグを付けることについて，衣料を持ち寄ることを仮定して質問した項目の集計結果を図 4-3，図 4-4 に示す。

アンケート回答者のうち，「メッセージをかけることは良いと思う」が 34.6%で最も回答者が多く，次に「メッセージを書く内容がない」は 34.0%，「メッセージを考えることが面倒に感じる」は 20.7%，「書く時間が面倒に感じる」は 10.6%という結果になった。

最も回答者の多い回答は「メッセージをかけることは良いと思う」でありメッセージを書くことに積極的であるが，他の選択肢の内容がメッセージを書くことにマイナスな考えであるため，60%以上がメッセージを書く内容がない，もしくは面倒と感じていると考えられる。

アンケート回答者のうち，衣料の前の所有者が自分だと分かる可能性があることに反対 72.3%，賛成 27.7%であった。

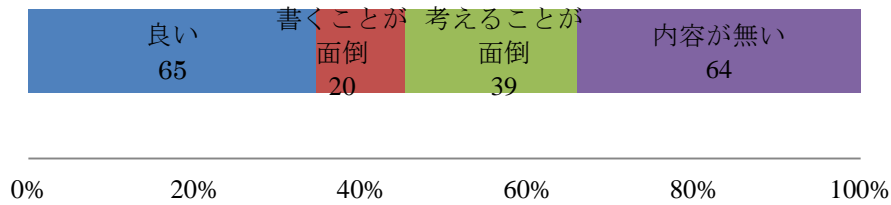


図 4-3 エピソードタグにメッセージを書くことについて (人)

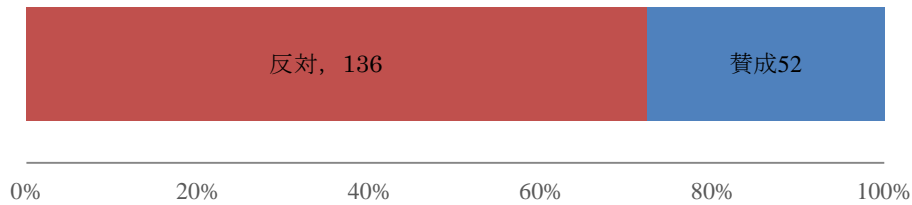


図 4-4 エピソードタグに名前などを書くことについて (人)

4-4-4 衣料交換会の開催頻度に関する質問項目の集計結果

衣料交換会の開催頻度に関して、衣料を衣料交換会に持ち寄りやすい開催頻度について質問した集計結果を図 4-5 に示す。

最も多い回答は「3ヶ月に1回」43.2%、次に「半年に1回」31.4%、「年に1回」16.2%、「月に1回」5.9%、「2カ月に1回」3.2%となった。

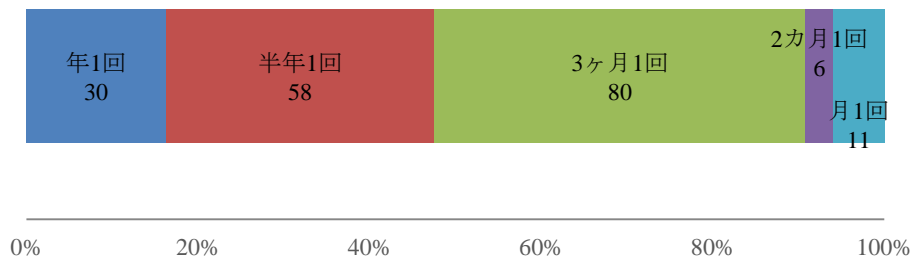


図 4-5 適当な開催頻度 (人)

4-5 不要衣料を持ち帰る立場を仮定した質問項目の集計結果

不要衣料を持ち帰る立場を仮定して質問を実施した、アンケートのIVの単純集計結果を記す。

4-5-1 衣料交換会で持ち帰る衣料のはじめの購入値段に関する質問項目の集計結果

質問項目にシャツ（カッターシャツ・ブラウス）、コート、パンツ・ズボン用いた。それぞれ4つの価格帯を例として挙げ、アンケート回答者にはどの価格帯で購入された衣料を衣料交換会で持ち帰りたいか、不要衣料を持ち帰ることを仮定して質問を実施した集計結果を表4-5、表4-6、表4-7に示す。

シャツ（カッターシャツ・ブラウス）を例として挙げた質問項目では、選択回答のうち最も低価格帯の「～3000円」に45%以上の回答が集中した。また、2つ目に低価格帯の「3001～7000円」の選択回答に40%以上が集まり、7000円以下の回答に90%近くの回答が集中した。

コートを例として挙げた質問項目では、選択回答のうち最も低価格帯の「～10000円」に50%以上の回答が集中した。また、2つ目に低価格帯の「10001～20000円」の選択回答に40%近い回答が集まり、20000円以下の回答に90%以上の回答が集中した。

パンツ・ズボンを例として挙げた質問項目では、選択回答のうち最も低価格帯の「～5000円」に55%近くの回答が集中した。また、2つ目に低価格帯の「5001～10000円」の選択回答に35%以上が集まり、10000円以下の回答に90%の回答が集中した。

例として取り上げた3種類の衣料の全てが選択回答のうち最も低価格帯の選択肢に約50%、2つ目に低価格帯の選択肢までに90%が集中する結果となった。

表4-5 持ち帰りたいと思うシャツ（カッターシャツ，ブラウスなど）の購入時の値段（n=187）

衣料の値段	回答人数（人）	回答率（%）
～3000円	91	48.7%
3001～7000円	76	40.6%
7001～17000円	12	6.4%
17001円～	8	4.3%

表4-6 持ち帰りたいと思うコートの購入時の値段（n=187）

衣料の値段	回答人数（人）	回答率（%）
～10000円	98	52.4%
10001～20000円	73	39.0%
20001～40000円	10	5.3%
40001円～	6	3.2%

表 4-7 持ち帰りたいと思うパンツ，ズボンの購入時の値段（n=187）

衣料の値段	回答人数（人）	回答率（%）
～5000 円	102	54.5%
5001～10000 円	68	36.4%
10001～25000 円	10	5.3%
25001 円～	7	3.7%

4-5-2 衣料を欲しいと感じるときに関する質問項目の集計結果

普段，衣料を欲しいと感じるときに関する質問項目の集計結果を表 4-8 に示す。

最も多い回答は「良い衣料を見つけたとき」であった。次に「好みが変わったとき」，「流行が変わったとき」となった。

衣料を欲しいと思うタイミングとして，「良い衣料を見つけたとき」や「流行が変わったとき」が多い結果となったことから，頻繁に衣料を欲しいと感じている，もしくは買い替えていると考えられる。

表 4-8 衣料を欲しいと思うときについて（n=187）

衣料をほしいと感じる時に関する質問項目	回答者数（人）	回答率
良い衣料を見つけたとき	144	76.6%
好みが変わったとき	89	47.3%
流行が変わったとき	57	30.3%
サイズが変わったとき	40	21.3%
不要な衣料を処分したとき	29	15.4%
収納場所に空きがあるとき	12	6.4%

4-5-3 エピソードタグに関する質問項目の集計結果

衣料交換会に持ち寄られる衣料にメッセージや名前を書いたタグを付けることについて，衣料を持ち帰ることを仮定して質問した項目の集計結果を図 4-6，図 4-7 に示す。

衣料の前の所有者がメッセージを書いていることに関して，「何も思わない」42.8%，「前回の所有者の気持ちが分かり大切にしようと思える」32.1%，「メッセージが書かれてあると重たく感じる」25.1%という結果になった。

エピソードタグに名前を書くことで，前の衣料の所有者が分かる可能性があることに関して賛成 36.9%，反対 63.1%という結果となった。

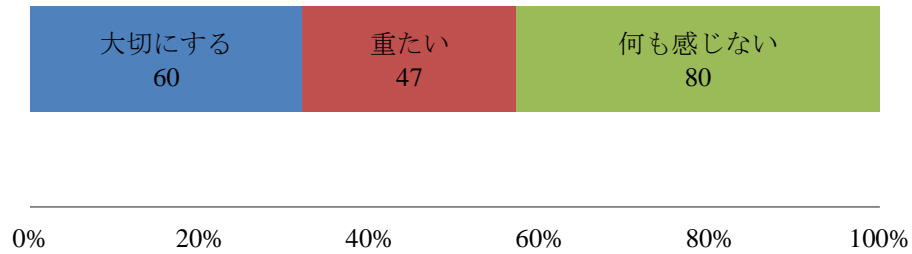


図 4-6 エピソードタグに前回の所有者のメッセージが書かれてあることについて (人)

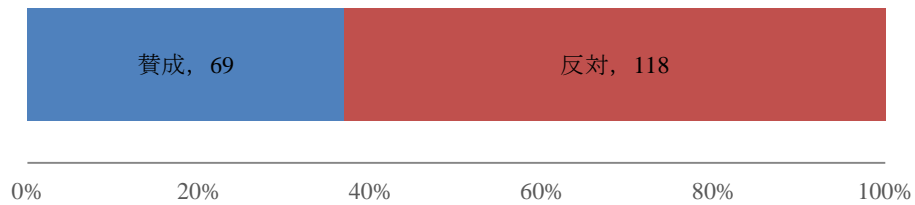


図 4-7 前回の所有者の名前がわかることについての賛否 (人)

4-5-4 衣料交換会の開催頻度に関する質問項目の集計結果

衣料交換会の開催頻度に関して、衣料を衣料交換会に持ち帰りやすい開催頻度について質問した項目の集計結果を図 4-8 に示す。

最も多い回答は「3ヶ月に1回」43.2%、次に「半年に1回」31.4%、「年に1回」16.2%、「月に1回」5.9%、「2カ月に1回」3.2%となった。

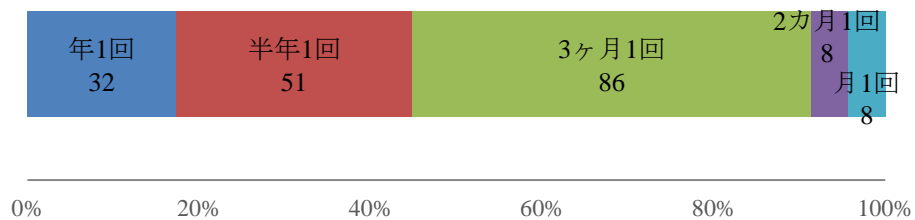


図 4-8 適当な開催頻度 (人)